

新 創 刊 雑 誌 紹 介

原 野 昇

Equinoxe

Revue internationale d'études françaises

京都（臨川書店）、年2回発行

日本国内で発表されるフランス語学・フランス文学関係の論文は、大学その他の研究機関の紀要類を除けば、ほとんどの場合、日本フランス語フランス文学会が発行する『フランス語フランス文学研究』Etudes de langue et littérature françaises（日本語版、フランス語版、年各一冊発行）に代表されるような、大小さまざまな研究会組織が発行する研究雑誌（本誌もその一つ）においてであろう。それらは原則として会員相互の研究交流およびその向上・発展をめざすものである。このたび創刊されたEquinoxeは、その点上記のようなものとは異なり、不特定多数の一般読者、すなわち定期・不定期を問わず講読を希望する者すべてを対象とした雑誌である。このような読者形態だけから言えば、類似のものとして『ふらんす手帖』（ふらんす手帖編集部、1972年創刊、年1回；1989年7月発行の18号をもって終刊）や『流域』（青山社、1979年創刊、季刊）があげられるかも知れないが、内容の面から言えばEquinoxeは専門的論文に限られている。また日本で発行されるが、用語はフランス語で、寄稿者は日本人に限らず広く海外にも求められており、「フランス文学研究国際雑誌」とうたわれている（創刊号案内状、誌名の副題参照）。事実既刊の1号・2号を見ると、その執筆陣は多彩である。題名だけ列挙してみると、1号（1987年秋刊）は以下の論文4編：Maurice PINGUET（東京大学）、La Chute d'Albert Camus et la dialectique hegelienne de la belle âme；Anne-Marie CHRISTIN（パリ第7大学）、Espace et convention chez Eugène Fromentin：l'expérience de l'Algérie；Hisashi SUEMATSU（山口大学）、Les Pensées et le métatexte：essai sur le symptôme de l'écriture inachevée；Naoki INAGAKI（京都大学）、La rencontre de Victor Hugo avec le genre "noir"、と3編の研究ノート：Jo YOSHIDA（京都大学）、Un extrait inédit du Temps perdu；Jean DUPEBE（パリ第7大学）、Deux épitaphes de Rabelais par Jacques de Vintimille；Gao QUIANG（南京大学）、Diderot et le drame bourgeois。さらに資料紹介：Kosei OGURA（東京大学大学

院), Note de lecture de Flaubert sur Qu'est-ce que la propriété? : Proudhon jugé par Flaubert, と学位論文抄録: Zhang YINDE (上海, 中国東師範大学), L'espace dans Une vie de Maupassant である。2号(1988年秋刊)は吉田城氏責任編集による「ブルースト特集号」であり, 以下のブルースト関係の論文ばかり10編が掲載されている。Bernard BRUN (パリ, CNRS), Les Incipit proustien et la Structure profonde du Roman; Antoine COMPAGNON (コロンビア大学), Le dernier écrivain du XIXe et le premier du XXe siècle; Takaharu ISHIKI (東京学芸大学), Proust et Vermeer: églises au bord de l'eau, amour et mort; Anne HENRY (ポール・ヴァレリ大学), Faut-il psychanalyser Marcel Proust? ; Enid G. MARANTZ (カナダ, マニトバ大学), Vers un portrait de la Duchesse de Guermantes : Proust et son art de "repeints successifs"; Toshikazu ODA (京都産業大学), L'anatomie proustienne du snobisme; Françoise SAKAI-BLOCH (東京大学), Sur le "Côté Dostoïevsky de Madame de Sévigné" à travers la Recherche du temps perdu; Akio USHIBA (慶応大学), L'aspect dialogique d'A la recherche du temps perdu; Akio WADA (大阪大学), La dactylographie problématique de Combray; Jo YOSHIDA (京都大学), Proust lecteur d'Anna de Noailles.

編集委員は今のところ日本人ばかり28名で, フランス文学界で活躍中の, どちらかと言えば若手の, 中堅研究者たちである。2号の刊行は少し遅れたが, 春季, 秋季の年2回刊行を原則としており, 毎回春季号は特集号にあてられるようである。3号は1988年冬季の普通号で1989年3月に発行された。4号はフランス革命200周年特集号が予定されている。この分野での日本における初めての本格的国際研究雑誌として今後の発展が期待される。

『ロンサール研究』Revue des Amis de Ronsard

ロンサール研究会 Société des Amis de Ronsard du Japon 刊, 年1回発行

1965年に高田勇現会長を中心に組織されたロンサール研究会の機関誌 Bulletin として刊行が開始されたものである。用語は日本語とフランス語で, 日本語の論文にはフランス語のレジュメがつけられている。1号(1988年5月刊)には日本語の論文4編とフランス語の論文3編が掲載されており, 後者のうち1編はフランスのランス大学 Yvonne BELLENGER 女史のものである。2号もほぼ同様の体裁で1989年5月に発行された。

このような専門研究誌は過去にもいくつか刊行されたことがある。例えば, Cahiers d'études médiévales (1~6号, 1963-1971年), 『フランス・ルネサン

ス文学』（1～3号，1963-1967年），『フランス十七世紀文学』（1～3号，1966-1968年）などがあるが，いずれも廃刊または中断したままになって久しい。新生の『ロンサル研究』が末永く刊行されることを期待したい。

Reinardus

Annuaire de la Société Internationale Renardienne

ALFA (Hollande, Grave)刊，年1回発行

国際『狐物語』研究者協会 Société Internationale Renardienne は2年に一回大会「国際動物叙事詩学会」Colloque international de l'épopée animale, fable et fabliau を開催しており，そのつど学会発表論文集 Actesが刊行されてきた。最近では第5回大会（1983年，トリノ＝サン・ヴァンサン）のものが Atti del V Colloquio della International Beast Epic, Fable and Fabliau Society, Alessandria (Edizioni dell'Orso), 1987 として刊行された。第六回大会（1985年ベルギー，スパ）のものは現在印刷中である。これらの Actesの刊行年と大会の開催された年を比較すれば明らかなように，Actes の刊行はかなり遅れてきている。実は Actes の出版は大会主催者にとって，経済的にも労力的にも大変な負担なのである。何十編という原稿を，世界各国にわたる著者と連絡を取りながら，集め，編集し印刷に回すことは大変な仕事であろうことは想像に難くない。発表論文数は毎回増え続けているし，もはや主催者をお願いするのは無理だということまでできていた。そこで何とか解決策はないものかと色々検討されたあげく，関係者の努力のお蔭で幸いなことに，オランダの由緒ある出版社 ALFA 社が当学会の機関誌の出版を引き受けてくれたのである。今後は大会毎の Actes の発行はなくなり，その代わり各大会で発表された論文は2回に分けて（大会は隔年）毎年刊行されるこの Reinardus に掲載されることになった。ただし毎号の頁数に制限があるので，大会で発表された論文全てを掲載することはできない場合もある。選択は，そのために組織された Reinardus 編集委員会が行うことになっている。1号（1988年刊）には，第7回大会（1987年，イギリス，ダラム）の発表論文50編のうち19編が掲載されている。その他 G. BIACIOTTO 新会長の巻頭言，K. VARTY 名誉会長の編集方針，M. SALVAT 氏の関連学会報告，および第7回大会プログラムなどの記事もある。2号は第7回大会の残りの発表の中から17編が掲載されて，1989年に刊行された。第3号は，1989年7月16～21日にスイスのローザンヌ大学で開催された第8回大会で発表された論文のうち約半数が掲載されて，1990年5月頃の発行が予定されている。

Bestia

Yearbook of the Beast Fable Society of America

年1回(12月)発行

動物寓話のみを対象とする学会が、アメリカの北西ミズーリ州立大学 Northeast Missouri State Universityの Ben BENNANI教授を中心として1987年に発足した。同大学に本部がおかれている。「アメリカ動物寓話学会」という名前であるが、委員会のメンバーの中にはフランス人・日本人もはっていて国際的であり、毎年開催される大会も国際会議として組織され、第1回大会は1988年 8月 2-9日にモロッコのアガディール Agadir で開催されたし、第2回大会は1989年 7月31-8月7日にデンマークのコペンハーゲンで開催され、第3回大会は1990年 4月16~23日にプエルトリコのマヤゲスで開催が予定されている。この学会はその名のとおり、古今、洋の東西を問わず動物を登場させる寓話を対象としているが、他の学会と異なる特徴は研究者のみでなく、動物寓話の作家、詩人、翻訳家などにも広く参加を呼び掛けていることである。この学会の機関誌として Bestia が創刊され、毎年、大会で発表されたものの中から優秀なもの (The most distinguished papers delivered at the Congress) が選ばれて掲載される。その選考はのために組織された Bestia 編集委員会があたるが、この委員会のメンバーは日本を含む8か国18名からなり、これもまた国際的である。1988年に開催された第1回大会の発表の中から選ばれた13編の論文が掲載された第1号が1989年 5月に刊行された。

Littérales

Cahiers du Département de français

Université Paris X 刊

これは学会が発行する雑誌とは異なるが、かなり定期的に開催されている書物に関する Colloque で発表された論文の中から、毎号いくつかが掲載されている。元パリ第10大学 (Nanterre) 教授で1988年にパリ第3大学に移られ、フランス中世文学の各分野で幅広く活躍中の Emmanuèle BAUMGARTNER 女史が中心になって創刊されたもので、中世から現代までの「本・書物」を研究対象としている。内容紹介文を引用すると、
“Les publications LITTERALES, cahiers de recherche en littérature, animés par E. BAUMGARTNER et N. BOULESTRAU, se donnent pour objectif de réexaminer l'écriture littéraire—du Moyen-Age à nos jours—sous l'angle de diverses théories et de son inscription dans des espaces matériels, en

particulier le livre.

LITTERALES fait alterner différents points de vue sur l'écriture, sa réalisation concrète, ses visées et son imaginaire; toutefois, ses livraisons sont toujours centrées autour d'une question précisément définie."

現在まで以下の5巻が刊行されている。()内は責任編集者名。

- No.1 Livre et littérature—Dynamisme d'un archétype, 1986 (Emmanuèle Baumgartener & Nicole Boulestreau)
- No.2 La présentation du livre, 1987 (")
- No.3 Livre et littérature—L'espace optique du livre, 1988 (")
- No.4 Théories et pratiques de l'écriture au Moyen Age, 1988 (Emmanuèle Baumgartener & Christiane Marcello-Nizia)
- No.5 Les modèles de la création littéraire, 1989 (Marie-Cristine Gomez-Gérard & Henriette Levillain)